

日吉ダム下流の河川環境に配慮した放流試験を実施しました

ダムができると一般に、ダムからの補給により下流の河川流況がコントロールされ安定化します。これは利水という目的のためには必要なことですが、それに伴い本来あった河川環境が変化する問題が指摘されています。日吉ダム下流は、田原川や園部川などの支川が合流しており、そのような現象が顕著には見られませんが、この問題を検討するため、平成 20 年 5 月 8 日 13 時から 17 時にかけて、一時的にダムの水を最大毎秒 27 立方メートルを放流しました。このような試験は数年前から全国のダムで実施されているところであり、「フラッシュ放流」と呼ばれています。日吉ダムでは今回が初めてのフラッシュ放流でしたので、保津川下りの運航に支障を与えないように午後からの放流とするなど、下流河川の安全に最大限の配慮をして行い、無事に試験を終えることができました。ご協力いただいた沿川の皆様や関係者の皆様にお礼申し上げます。

試験の効果を把握するため、ダム下流の 4 ケ所において、放流試験前の 5 月 7 日と放流試験後の 5 月 10 日に、河床の石に付着した藻類や土砂の状況を比較するための調査を行いました。日吉ダム管理所では、この調査結果を踏まえて、今後の放流試験に取り組んでいきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。



放流試験開始前の状況（放流量毎秒約 6 立方メートル）

撮影場所：田原川合流点より約 200m 下流付近



最大放流時の状況（放流量毎秒 27 立方メートル）
撮影場所：田原川合流点より約 200m 下流付近



河床材料採取状況